



佐野短期大学学報

か た く り



ACCREDITED
2005

本学は平成17年度勸
短期大学基準協会に
よる第三者評価の結果、
適格と認定されました。

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町1297 電話 (0283) 21-1200

謹賀
新年



ファッションフィールド2年 ディスプレイⅡ 「正月飾り」
須賀 愛理 長谷川 弘

年 頭 の ご 挨拶



新たなる躍進に期す

理事長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。今年一年が皆様にとって心豊かで平和な年になりますよう心からお祈り申し上げます。

さて昨年は、世界各地で想像を絶する自然災害、中東各国に広がる民主化運動の嵐、ヨーロッパ・ユーロ圏に広がりを見せる金融不安、景気の低迷など、世界の人々が、さまざまな危険と不安を感じた1年でした。特に、我が国における3・11東日本大震災、それにとまなう大津波、原発事故は、私たちに強烈な衝撃をあたえ、まるで生命の奥底に届くような衝撃でした。しかも、あの途方もない被災・犠牲の悲痛な思いが冷める間もなく、次々と襲い来る自然の猛威になすすべもありませんでした。東日本大震災が、科学技術立国という幻想に浮かれていた私たちに突きつけたものは何だったのか。また、あの激烈な試練の中で私たちはいったい何を学び、どんな理念にもとづいて復興・再興を進めていくべきなのか。いま国民は、この国の歴史をも揺るがしかねない国家的試練を迎えています。

しかし一方、未曾有の天災に遭遇した日本国民が、その窮境にあって、いささかも規律や礼節を失うことなく冷静沈着な対応を見せたことに、世界中から驚きと称賛をいただきました。それは日本人が古来よりもつ「和」の精神が脈々と受継がれていることの証でもあり、その国民性が世界に誇るべきものであることを広く知らしめることになりました。本学でも教職員や学生の皆さんが被災地への支援活動を継続的に行っていますが、そのような取り組みに対し、私は心より敬意を申しあげたいと思います。

教育は、過去と未来の接点に位置しています。しかも、今、目の前にいる学生の皆さんこそ、未来創造のかけがえのない宝だと信じています。混沌とし

た世相を見るにつけ、本学が掲げてきた「想う人」「考える人」「行う人」を根幹とした教育は、ますます大きな意味を持つと確信しています。様々な社会事象が私たちに語りかける言葉に耳を傾け、日本人としての誇りを大切に、混濁の社会に一灯を点ずることのできる逞しい人材の育成を目指していく。平成24年という年が、そのような教育を実践し結実させるための、起点の年になることを切望しています。

また、今年本学は国の定める7年ごとの「第三者認証評価」を受けることとなります。これは、大学が国から教育・研究・経営等について客観的・可視的な評価を受けるという大変重要なものです。本学を卒業した学生が地域社会の要請に応え、有為な人材として活躍できるよう、国際標準の「教育の質」を高めることが求められています。そこで私たち大学教育に携わる者にできることとは、いったいどんなことなのか。そのような社会の趨勢を鑑みたくえで、学生たちとともに教育機関としての本学の水準を高めていっていただきたいと考えています。

このような、現在の大学教育に求められる厳しい現状に、また、地域社会から望まれる人材の育成に対して間断なき努力と大きな成果をあげていただくことをお願い申し上げ、年頭の辞といたします。



年 頭 の ご 挨拶



新 年 雑 感

学 長 輿 水 優

新年おめでとうございます。

幼い子どもたちに愛唱される「もういくつねるとお正月」という歌は、今から百年以上も前に作られたそうです。歌詞は「はやく来い来いお正月」と結ばれています。幼児たちが楽しいお正月を指折り数えて待っている気持ちをよく表しています。

一方、大人は新しい年を迎えて、加齢とともに、「門松は冥土の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」という名句に感慨をもよおすかも知れません。これは頓知咄とんちばなしで有名な一休さんの言葉ですが、門松の2字を正月の2字に置き換えて聞くこともあります。一休禅師は15世紀に実在した和尚で、このような奇抜な言葉が数多く伝えられています。自由奔放な行動でも知られますが、実は世相を風刺したり、警鐘を鳴らす意味合いの名言が遺されているのです。

ひるがえって昨今の社会を見るにつけ、風刺や批判の精神に欠けていることが残念でなりません。新聞やTVニュースは、原発事故の報道で感じるように、すべて真相を覆い隠すかのようで、本質を衝く議論がないまま、国民の世論なるものが形成されて行く状況に恐ろしささえ感じます。

昨年3月11日の東日本大震災と、続く原発事故

は、太平に慣れてしまっていた私たちの心に大きな衝撃を与えました。この衝撃は私たちの生き方、考え方、また社会や家庭の在り方を見直しさせる、またとないきっかけを与えてくれました。例えば、あの3～4月の節電、計画停電は、家庭や社会における電気の浪費を気づかせてくれました。冬はさらに深刻な電力事情に陥ると脅かされていましたが、街のイルミネーションは大都会だけでなく、佐野の駅前にも輝いています。LEDで節約しているからとか、気持ちを明るくしたいから、といった説明が空々しく聞こえます。

特に原発関連のニュースでは、いまだに真実に蓋をしようとする傾向が顕著で、説明や報道に疑いを抱く人々が増えて来ました。核燃料のメルトダウンを引き起こしながら、その言葉を回避したり、汚染水を滞留水と言い換えたり、といった騙しに乗ってはなりません。この点では、メディアの責任も問われます。我々はこれから一層、社会を直視し、判断力を鍛えねばならないと痛感しています。一休さんに「世の中は起きて稼いで、寝て食って、後は死ぬを待つばかりなり」という言葉があります。生きる意味を知らない人間に対する警句ですが、もちろん、私たちはこのような生き方をしてはなりません。



第2回 SGC 佐野ガールズコレクション開催

11月27日(日)、イオンモール佐野新都市でファッションフィールドの学生が出演し、「第2回 SGC 佐野ガールズコレクション」が開催されました。ショーは3部構成で、1部では店内テナントの服を着用してブランドアピールを行い、2部は学生が自ら制作した服を披露しました。そして、3部ではプライダルファッションショーを行いました。



学生交通安全リーダー任命式

佐野短期大学学友会とサークル SEM のメンバー（のべ約 120 人）が「とちぎ学生交通安全リーダー」（通称タックル）に任命され、12月8日（木）佐野警察署において委嘱状の交付式が行われました。当日は学友会代表として学友会会長の菅野北海さん、SEM から大野仁美さん、青木裕美さん、江面里帆さんの4名が式典に臨みました。活動内容は交通安全の呼びかけが主で、学友会は学内学生への意識付け、SEM は児童館や幼稚園・保育園等での学外活動を通して、交通安全を呼び掛けていく事となります。



平成23年度 公開講座



12月10日(土) 女性に多い排尿のトラブル
～失禁体操で予防と改善～

平成23年度 **公開講座**

1/14 (土) 9:30~11:30
万葉の心
講師 大室 精一 教授

概要 昨年度に続き「万葉集」の名歌を鑑賞します。本年度は万葉の代表歌人であり歌聖と称される柿本人麻呂の魅力について考えてみましょう。人麻呂の歌では「淡海の海夕波千鳥波が泣けば情もしのに古思ほゆ」等が有名ですが、その他にも長歌の表現や人麻呂歌集の世界など、様々な視点から考えてみましょう。

1/28 (土) 9:30~11:30
啄木短歌の魅力
講師 大室 精一 教授

概要 昨年度に続き「一握の砂」「恋しき玩具」の名歌を鑑賞します。本年度のテーマは「ふるさと」です。啄木のふるさとの歌と言えば「ふるさとの山に向ひて／言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな」が有名ですが、これらの歌を「一家離散」の運命にあった啄木の人生と重ね合わせて考えてみましょう。

学報編集委員

穂積 元、亀田和則、阿部芳子、小竹利夫、大塚 登、藤田 睦、久保由佳、石塚将之、飯塚則章、齋藤 彩